

中心部における路線バスの実証運行（案）について

1 広島市中心部の路線バスの現状と課題

広島市中心部のバス路線は、各地域と都心（広島駅や紙屋町・八丁堀地区）との間を結ぶ放射型のネットワークを基本として形成されており、都心へのアクセス性が高い状況にあります。

一方で、東西に横断する移動は、都心方面に向けた移動に比べてアクセス性が低いため、デルタ外縁部に位置する交通拠点（西広島駅、横川駅、広島港等）、基幹的な医療機関（大学病院、日赤病院等）、大規模商業施設、学校などへの移動に当たっては、場合によって一旦都心へ向かった上で乗り継ぐ必要があり、距離や所要時間が増加するなどの課題があります。

以上から、現状のバスネットワークは、都心への移動需要に対しては一定の役割を果たしているものの、デルタ市街地内を横断する移動需要には十分対応できていない可能性があり、特に、都心を目的地としない利用者にとっては、迂回や乗り継ぎが負担となり、自家用車や自転車など、他の移動手段を選択する要因になっていることも考えられます。

2 実証運行（案）

広島市中心部の路線バスの利便性向上に向けて、次の実証運行を予定しています。

運行事業者	広島電鉄㈱、広島バス㈱、広島交通㈱
実施期間	令和8年10月1日（木）～12月30日（水）（予定） ※運行期間終了後の本格運行への移行時期等は検討中
運行時間帯	平日：6時台～18時台、休日：7時台～19時台
ルート	下図参照
実施内容	・既存の放射型ネットワークを補完し、デルタ市街地内の東西移動の利便性向上を図る路線を新設 ・路線新設により、沿線の交通拠点、医療機関、商業施設、学校等へのアクセス性を向上 ・デルタ内の交通空白の解消
検証事項	・新たなエリアの運行に伴う需要の変化 ・採算性

なお、中心部のネットワークのさらなる利便性向上を図るため、本実証運行路線と既存路線との接続や路線間の役割分担を考慮しながら、既存路線の見直しを検討します。



3 今後の予定

- 9月中旬 沿線地域へのチラシ配布
- 10月1日～ 運行開始